

年間第 15 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 7 月 11 日 (日)

《そのようになりなさい》

主の平和。

説教に入る前に、今日の答唱詩編の応唱を、もう一度一緒に歌ってみましょうか。典礼聖歌 115 番「主は豊かなあがないに満ち、いつくしみ深い」

はい、ありがとうございます。この言葉を信じていらっしゃるのでしょうか。

これは信じているかどうかの問題ではなくて、意識しているかどうかの問題です。私たちは神様の慈しみ、あがないを信じています。しかし、信じていても、毎瞬間の私の生き方の中に意識しているかどうかによって、力がある言葉になるか、そうでないかが決まると思います。そうでしょう。意識しましょう。神様はいつでも慈しみに溢れて、私たちをあがなって下さる事を意識すれば、それで良いと思います。

それでは、今日の福音(ルカ 10・25-37)に入ってみましょうか。今日の福音は、別の説明をしなくても、イエス様がどの位素晴らしい人物だったのか、どの位素晴らしいみ心を持っていらっしゃるのかが分かる内容です。サマリア人のたとえ話です。このたとえ話を知らないカトリック信者はいないと思います。今日、2つの箇所について、皆様と分かち合いたいと思います。

私たちは仕方なしに、生まれた家族、生まれた村、生まれた町、生まれた市、生まれた国の影響を受けます。言葉を替えますとその“文化”の中にいます。もっと率直に言いますと、自分が見てきた環境に影響を受けて、自分自身がそれを現しています。2~3週間前だと思うのですが、何故ユダヤ人がサマリア人を憎んだかについて説明させていただきましたね。今日、3人の人の中で真の隣人は誰であるか。そしてそれがイエス様を試そうとした者の口から、「哀れみを見せたサマリア人です」という言葉が出たのです。そうでしょう。私が今日改めてひとつ申し上げようとする事は、もう何度も強調して申し上げたのですが、“先入観”という言葉です。私たちは死ぬまで“固定観念”、“先入観”“そういう“偏見”という言葉に縛られています。皆様はどうでしょうか。そのような言葉から自由でしょうか。自由ではありません。

しかし、今日の福音をとおして考えなければならない事、例えば、私は子供の時、「自分の国は良い国」「他の国は悪い国」と教えられて来ました。そしてそうだと思って来ました。しかし自分が自分の事ある程度識別出来るような歳になったら、「これは完全に‘だまし’だ」と思いました。ということは、たとえ自分の国、自分の家族の中にあっても、‘上手く作られた者’もいれば‘上手く作られなかった者’もいることを認めなければならないのです。相手の所に‘悪い者’がいれば‘良い者’もいるという事が、私たちの“人を見る基準”にならなければならないと私は思います。特に私たちの教会は国際的な家族です。ですから、色々な文化の中で育って来た違いがあります。好みも違います。どうでしょうか。

お願いいたします。その人が‘良い者’か‘良くない者’かは、その人が関西か関東か、そういう問題ではありません。鈴木家か田中家かの問題ではありません。その人の“心”をはかろうとして下さい。敵と言われるある群れの中でも、自分が救われる可能性はいつもあります。その人が私たちの友になります。

皆様、お願いします。友になって下さい。人を助けてあげるその役割を自分の役割として思ってください。何故ならそのような生き方が一番幸せな道になるからです。結局、「行って、去ってしまう」だけの人生なら、悪口を言いながら行く必要は無いでしょう。出来るだけ人を感動させながら、人から慕われるような生き方が出来れば、“後悔する心”を減らせるのではないのでしょうか。皆様、私たちは仕方なく、“偏見”とか“先入観”の中に生きています。イエス様が33年間、特に最後の3年間訴えた、一番大きな面もそのようなことだと思えます。《あなたが罪人だと思っている者、あなたが責めようとするその者、裁こうとするその者があなたより天国に近づいているかも知れない》。ということは、私たちの心が間違えた方向に向いていれば、変えなければならぬということをおっしゃっているのではないのでしょうか。私も認めます。色々な偏見があります。無意識的に口から出てしまう言葉もあります。「そうか、また同じか」と言ってしまう場合もあります。しかしこのようなことは避けなければならないひとつの悪い点だと思えます。皆様、いつも新しい気持ちで、その人の良い面をみようとする目を持つことが出来れば、相手に対して、その相手のありのままの正しさを見つけると思えます。そしてありのままの間違ったところも見つけると思えます。偏見なしに見られた間違えたところだったら、直してあげるべきです。偏見なしに見られた良い点だったら誉めるべきです。皆様、このような基準をはっきり作りましょう。それが福音だと思えます。文化によって、習慣によって全てを同じ目で見てしまう、そのような間違えた目を返しましょう。

次の話です。イエス様を試そうとして、何とか言葉尻をつかもうとした律法学者が質問します。「どうすれば永遠の命を得られるのでしょうか？」するとイエス様は『聖書に何と書いてあるのか？』と聞き返しました。「心を尽くして、全てのことを尽くして神様を愛し、隣人を自分のように愛さなければならないことだと書いてあります」と律法学者は答えます。イエス様は『それは正しいことだ』とおっしゃいました。質問した者は自分が‘そのように、聖書にあるような生き方をしてきました’と自分を正当化しようとする気持ちで「それでは隣人はだれですか？」と言ったのです。するとイエス様は、祭司、レビ人、そして敵とされているサマリア人、結局この3人の中でサマリア人があなたの隣人ではないかという結論まで律法学者の口から導いたのです。その言葉を聞いたイエス様が何とおっしゃいましたか、『あなたもそのとおりにしなさい』。頭だけに良い考えがたくさんあっても、それが具体化されなかつたらそれは何の意味もありません。ある意味で、むしろ人をだますことになるかも知れません。きれいな言葉や正しい考えがあっても、頭だけに止まったら、本当にその相手を救うことは出来ません。何故なら実践が無いからです。具体的な振る舞いがないからです。

自分に反対する者から自分を認めさせる、そのイエス様の知恵。その知恵にあるその宝物。簡単です。『私たちが思ったこと、それが正しかったらそれを実行しなさい』『そのようになりなさい』というのがポイントではないのでしょうか。確信ではないのでしょうか。皆様、私たちは頭の中で良いことを

たくさん持っていると思います。しかし、それを心の中で、頭の中で殺さないように生かしましょう。生かして具体的に生きがいを感じましょう。その生きがいによって人々が、少しでもイエス様を分かるようにしましょう。そうすれば、私たちは“幸せな者”になれると思います。

結局、今日の福音も同じことです。『無駄なことに力を尽くさないで、本当にあなたの永遠の命にかかわることに力を尽くして下さい』というメッセージではないでしょうか。

さあ皆様、今週もものすごく暑くなりそうです。しかし、色々なストレス、それを流しましょう。流して出来るだけ希望を持ちながら一週間を迎えましょう。2 日前の夕ミサで宿題を出しました。今日もう一度差し上げます。これは私の独断的な宿題かも知れません。しかし従順に行って頂きます。

「毎日 5 回、意味が無くても良いのです。大きな声で笑いましょう。きちがいだと言われてもかまいません。しかし 5 回条件無しに笑いましょう」。

どのように笑うか一度やってみましょう。(皆大笑い)

このように笑って下さい。結局笑うか泣くかは自分が選ぶものです。笑いましょう。

ありがとうございました。